きずな

結

～手をつないで歩いていこう～

大里柳校区社会福祉協議会小地域福祉活動第一次計画

ごあいさつ

大里柳校区社会福祉協議会
会長　吉野　益生

大里柳校区では、住民みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくりを目指して、地域住民や公私の社会福祉関係者が協力して地域福祉活動を進めてきました。特に、北九州市で平成5年に開始されたふれあいネットワーク活動にも平成6年より取り組み、「自分たちの地域の福祉課題は、自分たちが解決していく」という目的の下、見守り・話し合い・助け合いの活動を中心に小地域福祉活動を進めてきました。

現在は、全国的に本格的な少子高齢化時代となり、世帯構造についても大きな変換期を迎えています。北九州市においても少子高齢化や、障害を持つ人の増加、孤立死やホームレスの問題など地域の生活課題は一層の多様化を見せており、地域福祉の重要性の高まりが必要とされています。その中で行政と民間団体との役割分担と協働の指針である「北九州市の地域福祉2021－2025」（北九州市地域福祉計画）が行政により策定され、また行政計画と協働しながら北九州市社会福祉協議会が中心となって地域社会の福祉課題を解決するため「地域共生！きたきゅうプラン2021～2025」（北九州市地域福祉活動第六次計画）が策定されたところです。

大里柳校区においても新しい課題が生まれてきており、今後地域福祉活動を進めていくためには、地域福祉を担う各種団体がもう一度地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けて話し合い、協働を生み出していく協議の場が求められています。そこで、協議の場を作り、北九州市の地域福祉計画及び地域福祉活動計画と整合性を持ちながら、住民主導により地域福祉活動を進めるため、新しい小地域福祉活動計画を策定しました。

この計画の策定にあたりご尽力いただきました、本計画策定委員会委員並びにご意見をお寄せいただきました関係者の皆様に、感謝を申し上げ、ご挨拶といたします。

も く じ

ごあいさつ …1p

第1章　計画策定にあたって …2p
1　計画の性格
2　計画の期間
3　計画の策定経過

第2章　大里柳校区の現状と課題 …3p
1　地域社会の動向
2　地域の福祉課題

第3章　計画体系 …4p
1　基本理念
2　基本目標
3　実施項目（体系図）
4　重点実施項目

第4章　計画の推進 …8p
1　計画の承認と周知
2　計画を推進するための体制
3　第２期計画の策定

参考資料 …9p
1　策定委員会名簿
2　推進委員会名簿

第1章　計画策定にあたって

1　計画の性格

(1)住民発信の行動計画

この計画は、大里柳校区の様々な福祉課題を解決するために、住民や民間団体が将来の見通しを持って計画的に活動しようとするための民間の行動計画です。

(2)小地域の生活を支える計画

この計画は、大里柳校区に住む人たちの「生活」を支えることを活動の原点とする計画です。

(3)北九州市及び北九州市社会福祉協議会・門司区社会福祉協議会と協働する計画

この計画は、北九州市及び北九州市社会福祉協議会・門司区社会福祉協議会の計画と連携しながら地域福祉活動を進めていく計画です。

(4)大里柳校区社会福祉協議会の活動指針となる計画

この計画は、社会福祉協議会が地域福祉推進の中核的な団体としての方針や発展強化の道筋を明らかにする性格を有します。

2　計画の期間

令和7年度～令和11年度までの 5 ヵ年とします。計画の期間中、地域を取り巻く状況に大きな変化があれば、見直しを行います。

3　計画の策定経過

大里柳校区では、地域福祉活動に取り組んでいる関係機関・団体等からの意見を踏まえ、民間の地域福祉に関する計画を策定するため、大里柳校区小地域福祉活動計画策定委員会を設置しました。令和6年10月4日に立ち上げた同委員会において、10名の委員により4回に及ぶ協議の上、大里柳校区小地域福祉活動計画を策定しました。

回	開催日	主な協議事項
1	令和６年１０月４日	第1回策定委員会 ・既存の取り組みの整理 ・地域の良い所、困りごとの整理
2	令和6年11月20日	第2回策定委員会 ・現在の取り組みと困りごとの整理 ・重点実施項目の検討
3	令和 7 年 1 月 21 日	・重点実施項目の決定 ・計画タイトルの決定 ・概要版デザイン決定
4	令和７年２月２１日	・基本理念の検討・決定 ・計画書(案)・概要版(案)の検討・決定

第2章　大里柳校区の現状と課題

1　地域社会の動向

校区基本データ　　　　　　　　　　　　　　　　　　**令和6年9月末現在**

人口	9,187 人	**小学校**	大里柳小学校
世帯数	4,637 世帯	**中学校**	柳西中学校
高齢化率	27.0%	**公民館・市民センター**	大里柳自治公民館
65歳以上高齢者	2,480 人	**地域包括支援センター**	門司3
民生委員・主任児童委員	14人	**福祉協力員**	35人
その他社会資源等	病院、介護施設、福祉施設、教育施設、公園等		

大里柳校区は、大里地区の中央に位置しています。南東には戸ノ上山、北西には船舶の往来盛んな関門海峡があり、海と山の間にあるゆるやかな丘陵地にあります。門司駅北口の開発により、戸建て住宅やマンション、商業施設ができ、若い世代の流入が増えたことも一因となり、門司区の中で一番高齢化率が低い校区です。病院も多く、電車やバスもあり、利便性が高い地域でもあります。

2　地域の福祉課題（及び小地域福祉活動の課題）

大里柳校区では平成 6 年よりふれあいネットワーク活動が展開されていますが、30年を経過する中で、福祉協力員等福祉活動者の平均年齢も70歳と高くなり福祉活動者の早急な育成が求められています。

福祉活動を進めていく上での課題としては、地域住民のつながりの希薄化、社会環境の変化等により、見守りが必要な方の情報が十分に得られていないという現状があります。自治会未加入者・転入者等が、校区のすべての住民が対象である社会福祉協議会の活動の輪から漏れているのは寂しいことです。

また、校区が取り組んでいる福祉活動の周知が進んでいないため、近年話題になっている高齢者を対象とした消費者被害や、虐待問題も数件発生しており、日ごろからの見守り活動に加えて、地域行事を利用した住民への啓発活動の重要性も高まってきています。

第3章　計画体系

1 体系図

きずな
結 ～手をつないで歩いていこう～

基本理念　次世代へつなごう♥心温まるまちづくり

Goal1

住民相互の繋がりや世代間交流を深めるとともに、次世代の活動者を育成しよう

・ふれあいネットワーク活動推進事業
・住民盆踊り大会
・校区敬老会
・社協研修会
・古紙回収
・校区福祉バザー
・ウェルクラブ
・やなぎドリーム
・年末年始活動
★担い手づくり

Goal2

健康づくりに励み、元気で健康維持に努めよう

・健康づくり
元気でハツラツ健康アップ体操
・夏休みラジオ体操
・住民ウォーキング
・グランドゴルフ大会
・住民健康相談の日
・サロン活動

Goal3

一人ひとりの安全で安心な暮らしを守ろう

・生活安全パトロール
・歳末特別警戒夜間巡視
・夜間パトロール
★屋内外での休憩場所づくり
★支援が必要な方の福祉支援体制づくり

２ 重点実施項目

重点実施項目	屋内外での休憩場所づくり

１　課題背景及び現状

商店街やスーパーマーケットがあり買い物に便利な校区ですが、買い物に来た人の休憩する場所がほとんどなく、つらそうに歩く姿を見かけます。高齢者や障害者に限らず、誰もが休憩できる場所づくりが必要です。

２　活動の方針・目標

買い物で来られた誰もが休憩できる場所づくりを検討し、設置に向けて取り組みます。また、設置後はその情報を周知していきます。

３　段階的な取り組みの年次計画

取り組み内容	連携する機関	R7	R8	R9	R10	R11	備　考
休憩場所の検討	・校区社協 ・自治会 ・まち協 ・民児協 ・市民センター ・小学校 ・区社協 ・行政	→					
関係機関との調整		→	→				
設置方法の検討、実施		→	→				
休憩場所の周知				→	→	→	
活動の点検・評価・見直しと報告						→	

重点実施項目	担い手づくり

１　課題背景及び現状

若い世代が多い校区ですが、地域行事に若い世代の参加が少ない状況です。また、地域行事を運営する校区関係者も高齢化が進んでおり、若い世代の担い手不足に対しての対策が必要です。

２　活動の方針・目標

子どもが参加する行事には親も参加するため、若い世代と中高年世代が交流できる場になります。若い世代に地域のことを知ってもらい、好きになってもらった後に、行事を手伝ってもらうように働きかけ、将来の担い手を育てます。また、行事の案内は PTA を通じて子育て世代にも周知していきます。

３　段階的な取り組みの年次計画

取り組み内容	連携する機関	R7	R8	R9	R10	R11	備　考
担い手づくりの検討	・校区社協 ・自治会 ・まち協 ・民児協 ・市民センター ・小学校 ・PTA ・区社協 ・行政	→					
行事の周知（校区だより、市民センターだより、PTA の発信ツール）		→	→	→	→	→	
行事の実施		→	→	→	→	→	
担い手づくりの実施			→	→	→	→	
活動の点検・評価・見直しと報告						→	

重点実施項目	支援が必要な方の福祉支援体制づくり

１　課題背景及び現状

現在、福祉協力員は、町内会に加入している高齢者など支援が必要な方々の見守りを行っています。しかし、支援が必要な方が町内会を脱退すると、支援の対象から外れてしまう恐れがあります。そこで、支援が必要な方々のための福祉支援体制を再検討する必要があります。

２　活動の方針・目標

支援が必要な方を把握するためには、敬老会や地域行事などで一人暮らしの方の情報を収集することが必要です。また、基本台帳の更新も重要です。そうした取り組みを通じて、支援が必要な方ができるだけ支援から漏れないように、福祉支援体制の再検討と実施を行います。

３　段階的な取り組みの年次計画

取り組み内容	連携する機関	R7	R8	R9	R10	R11	備　考
福祉支援体制づくりの検討	・校区社協 ・自治会 ・まち協 ・民児協 ・市民センター ・区社協 ・行政 ・小学校	→	→				
福祉支援体制づくりの実施				→	→	→	
福祉支援体制づくりの周知				→	→	→	
福祉支援体制づくりのための研修		→	→	→	→	→	
連絡調整会議での情報共有				→	→	→	
活動の点検・評価・見直しと報告						→	

第4章　計画の推進

1　地域への計画の承認と周知

① 校(地)区社会福祉協議会総会等を通じた社会福祉協議会活動者への計画の承認と周知
② 計画の実施項目を進めていく上での関係機関・団体への周知・協力依頼
③ 計画書概要版の配布等を通じた校(地)区住民への周知
等、計画を推進していくために、計画の広報活動を行います。

2　計画を推進するための体制

(1)小地域福祉活動計画推進委員会の設置

計画を推進していくために、大里柳校区小地域福祉活動計画推進委員会を設置し、計画の進行管理を行います。
① 関係機関・団体との連携
② 計画内容の具体的な実施方法
③ 進行管理の実施
等について、委員会で協議を進めていきます。

(2)計画の進行管理

大里柳校区小地域福祉活動計画推進委員会を年数回程度開催します(当年度の事業推進の確認、年度内における中間確認、次年度の事業確認、また必要に応じて開催)。委員会では、PLAN(計画立案)DO(実行)CHECK(点検・評価)ACT(改善)という PDCA のサイクルを回しながら、計画内の各実施項目の進捗状況を把握し、うまく進行していない場合には、その原因を明らかにし、問題への対策を立て、その対応策を実施します。

(3)計画の評価

計画期間の中間時点では計画全体の中間見直しを、最終年度には総括評価を行います。

3　第2期計画の策定

第1期計画の推進状況を踏まえて、第2期計画の策定時期(計画第4～5カ年度)には新しく第2期計画策定委員会を設置し、計画策定に向けて協議を進めていきます。

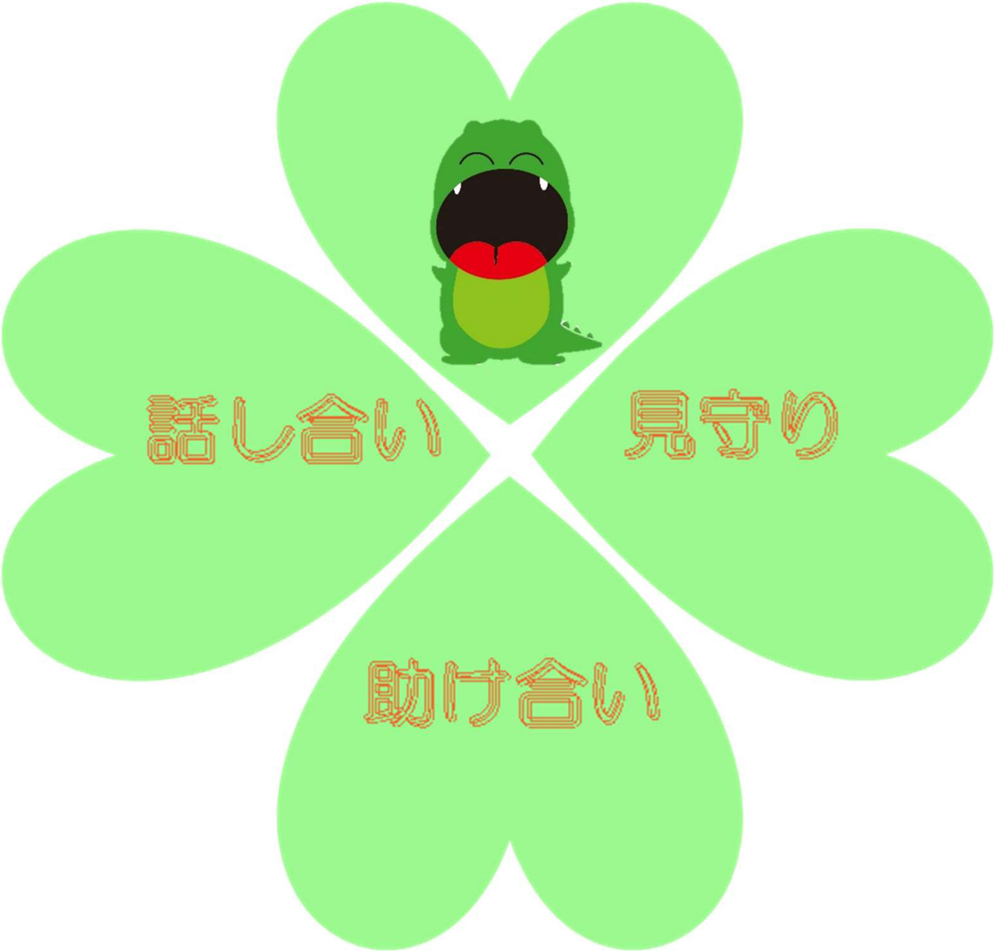
【参考資料】

1 大里柳校区小地域福祉活動計画策定委員会　委員名簿

	氏　名	所属団体	役　職
1	吉野　益生	校区社会福祉協議会	会長
2	品田　隆士	校区社会福祉協議会	副会長
3	川口　千鶴	校区社会福祉協議会	事務局長
4	山田　文子	校区社会福祉協議会	会計
5	吉田　一憲	大里柳小学校	校長
6	宗森　裕哉	大里柳小学校	PTA 会長
7	松澤　義行	地区民生委員児童委員協議会	民生委員
8	濱田　澄子	地区民生委員児童委員協議会	民生委員
9	菊地　公平	町内会長	町内会長
10	石橋　ひとみ	地区民生委員児童委員協議会	主任児童委員

2 大里柳校区小地域福祉活動計画推進委員会　委員名簿

	氏　名	所属団体	役　職
1	吉野　益生	校区社会福祉協議会	会長
2	品田　隆士	校区社会福祉協議会	副会長
3	川口　千鶴	校区社会福祉協議会	事務局長
4	山田　文子	校区社会福祉協議会	会計
5	吉田　一憲	大里柳小学校	校長
6	宗森　裕哉	大里柳小学校	PTA 会長
7	松澤　義行	地区民生委員児童委員協議会	民生委員
8	濱田　澄子	地区民生委員児童委員協議会	民生委員
9	菊地　公平	町内会長	町内会長
10	石橋　ひとみ	地区民生委員児童委員協議会	主任児童委員



大里柳校区社会福祉協議会
〒800-0025　門司区柳町 2-9-1（大里柳公民館）
TEL：381-3400